

会社の健康診断ツール ローカルベンチマーク

病気の治療に早期発見が欠かせないように、企業も経営課題を早めに見つけて、しっかり向き合っていくことが大切です。課題をそのまま放置しておく、経営のリスクはどんどん高まってしまいます。その課題発見に役立つのが、企業の健康診断ツール、ロカベンこと「ローカルベンチマーク」です。既にご存知の方も少なくないと思われそうですが、そんなロカベンの概要について、今回ご紹介します。

■ローカルベンチマークとは

ローカルベンチマーク(以下:ロカベン)は、経済産業省が推進する企業の経営状態を把握するためのツールです。これは、企業の「健康診断」として機能し、企業経営者と金融機関や支援機関が対話を通じて、企業の現状や課題を可視化して共有し、経営改善や地域活性化を目指すものです。

■ローカルベンチマークシートの使い方

経営診断ツールというと、財務情報を分析するものが一般的ですが、ロカベンは、「**財務分析**」と「**非財務**」の両面から、企業の健康診断を行うのが特色です。ロカベンはたった3枚のシートで構成されていますが、考える範囲は経営全般であり、財務と非財務の関連性や非財務の特長を見える化できるため、多くの気づきが得られる構成になっています。

*ロカベンスシート(Excel)は、経済産業省のHPからダウンロードが可能です。

⇒https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/sangyokinyu/locaben/sheet.html

I. 「財務分析」

財務分析では、経営の数字を分析します。確定申告書類の損益計算書や貸借対照表などから該当する数値を入力することで、以下6つの指標が計算されます。

- ① 売上持続性(売上増加率)
- ② 収益性(営業利益率)
- ③ 生産性(労働生産性)
- ④ 健全性(EBIDA有利子負債)
- ⑤ 効率性(営業運転資本回転期間)
- ⑥ 安全性(自己資本比率)



自社の経営状態が、同業種の企業と比べてどのような位置にあるのかを点数化し、チャートで表示します。

II.「非財務」

ロカベンの最大の特色は「非財務」からの経営診断です。非財務では、以下の3つから評価します。企業の経営状況を把握し、強みや課題の発見、課題を解決するための対応策の策定につなげていきます。

a. 業務フロー

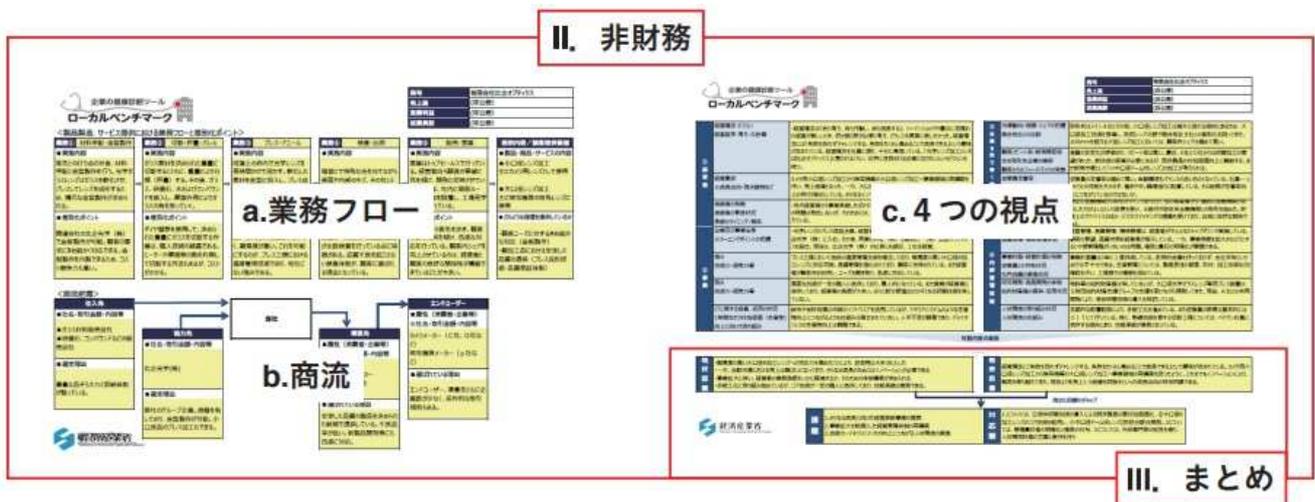
自社の業務の流れについて整理しながら、「差別化ポイント(自社のこだわりや工夫)」を発見することが、主な目的となります。

b. 商流

商流とは「取引の流れ」のことです。ここでは、自社のビジネスがどのような取引関係から成立しているか、なぜ、その仕入先・関係先なのか、なぜ、顧客から選ばれているのか？を把握します。

c. 4つの視点

経営者、事業、企業を取り巻く環境・関係者、内部管理体制という4つの視点で、企業の現状を整理します。



III. まとめ

ロカベンの財務分析と非財務の結果から、企業の「現状認識」について1つのストーリーとなるように整理します。つぎに「将来目標」を設定し、現状と目標のギャップを埋めるための「課題」と課題解決のための「対応策」を記載していくところまでを行います。

ロカベンは、金融機関における認知度は94%、活用割合は4割に上っています。金融庁でも担保や保証に依存せず、非財務情報を含めた事業性評価による融資を促進しているため、企業と取引金融機関との意思疎通や共有ツールとしての役割が期待されているようです。

ロカベンの詳細は、こちらから確認できます。

■経済産業省

(https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/sangyokinyu/locaben/)

■ミラサポplus

(<https://mirasapo-plus.go.jp/hint/15111/>)